

## 第22回東京科学シンポジウム 第6分科会 「自然科学の進展を俯瞰する III」

- 開催趣旨：自然科学の各分野における著しい進展を、専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色を活かして俯瞰することを目指す分科会を開催します。各分野での進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。今回は、日本科学者会議の設立目的である科学の普及の面でのどのような動きがあるか、3人の講師からご報告いただきます。分野の違いに加え、社会とのかかわりは多面的であり、お話から学ぶことは多いと思います。堅苦しくない議論のできる会にしたいと考えていますので、ぜひお気軽にご参加ください。

- プログラム

12月10日（日）15：45～18：00 座長：青木和光（国立天文台）

15：45～15：55 座長あいさつ

15：55～16：25（1）縣秀彦（国立天文台）：基礎科学と平和外交－国際天文学連合の10年戦略を読み解く－

16：25～16：55（2）秋本祐希：素粒子をどのようにゆるく伝えるか

16：55～17：00 <休憩>

17：00～17：30（3）高瀬堅吉（中央大学）：シチズンサイエンス推進の現状及び課題

17：30～18：00 質疑応答・議論、まとめ

- 場所・オンライン接続情報および参加登録

拓殖大学文京キャンパス（茗荷谷）

参加のためにはシンポジウムへの参加登録をお願いします。

会場参加の場合には参加費が必要となります。

オンライン参加は無料です。参加登録いただくと、後日、接続情報が送られます。

参加登録は日本科学者会議東京支部のウェブページ、または以下のQRコードからお願いします。

<http://jsa-tokyo.jp/>



シンポジウムでは全体集会・特別報告と16の分科会が開催されます。シンポジウム全体の案内は上記ウェブページでご覧いただけます。

## ● 報告要旨

### 報告（１） 縣秀彦（国立天文台）

タイトル：基礎科学と平和外交 ―国際天文学連合の10年戦略を読み解く―

概要：国際天文学連合（IAU）は、国際協力を通じて天文学の発展を図ることを目的として、1919年に設立された非政府の世界組織である。日本は1920年にナショナルメンバーとして加盟し、現在、個人会員数が世界第3位となっている。IAUは2009年の世界天文年以降、天文学者向けの活動から社会への貢献も視野に入れた成長戦略に舵を切り、国際協調、インクルージョン、発展や教育などの項目を目標に掲げた10年戦略を実行している。これらの活動を考察し、基礎科学における国際協調の重要性など今日の国際社会安定のため果たしうる役割について議論する。

### 報告（２） 秋本 祐希

タイトル：素粒子をどのようにゆるく伝えるか

概要：研究者やそれに類する人たちが公衆に向けて科学を語る際には、多かれ少なかれ、公衆にその科学の内容を「わかって」ほしいと思って話をすると思っています。素粒子物理学においては、標準模型に登場する素粒子を説明する理論は大変重要なものですが、そこで説明される素粒子は目で見ることができないどころか、その大きさや形、そもそも本当に粒なのかどうかすらわかっておらず、そのようなものを「わかって」もらうことは簡単なものではありません。そのような実物や実体を容易には想像できない分野でどのように素粒子をゆるく伝えているのか、著者の経験にしか基づいていない活動内容をゆるくご紹介できればと考えています。

### 報告（３） 高瀬堅吉（中央大学）

タイトル：シチズンサイエンス推進の現状及び課題

概要：シチズンサイエンスは、職業科学者でない一般の市民によって行われる科学的活動であり、その活動は、しばしば職業科学者や研究機関との協調により、もしくはその指導の下で行われる。話題提供では、シチズンサイエンスの国内外の動向およびシチズンサイエンスに関する自身のこれまでの取り組みを紹介する。そして、その取り組みを通じて明らかとなったシチズンサイエンス推進の現状及び課題について触れていきたい。